

論文審査の要旨
(Summary of Dissertation Evaluation)

博士の専攻分野の名称 (Major Field of Ph.D.)	博士 (文学) Ph.D.	氏名 (Candidate Name)	晏 鈺
学位授与の要件	学位規則第4条第1項該当		
論文題目 (Title of Dissertation) 唐様建築の起源と発展に関する研究			
論文審査担当者 (The Dissertation Committee)			
主 査 (Name of the Committee Chair)		教授	三浦 正幸
審査委員 (Name of the Committee Member)		教授	中山 富廣
審査委員 (Name of the Committee Member)		教授	岡橋 秀典
審査委員 (Name of the Committee Member)		准教授	伊藤 奈保子
審査委員 (Name of the Committee Member)	奈良女子大学・教授		藤田 盟児
〔論文審査の要旨〕 (Summary of the Dissertation Evaluation)			
<p>和様と唐様（禅宗様）は日本の二大建築様式である。本論文は、初期の唐様建築（仏殿・塔婆など）を網羅的かつ詳細に分析することに加え、唐様成立以前の和様・天竺様（大仏様）建築との比較、さらには唐様の源流とされる中国建築の細部意匠との比較研究を行い、唐様の起源と発展について、従来の見解を根本的に再考するものである。本論文は、序章と結章を加えて全六章から構成される。</p> <p>序章では、先行研究の問題点と研究の目的・方法を述べる。</p> <p>第一章では、唐様建築の各部形式や細部意匠について詳細な検討をする。七節に分けて論考しているが、各節の内容は新たな知見に満ちており、それぞれが日本建築史研究に対して重要な成果といえる。第一節では、唐様仏殿の柱間寸法決定法について検討し、当初は和様の枝割が応用され、少し後れて斗栱間隔を統一する手法が現われ、15世紀前期に二つ手法が同時に応用されることを示した。第二節では、天井形式について検討する。方一間鏡天井の周囲に尾垂木尻架構を設ける形式が従来、本格的な唐様仏殿と評価されてきたが、総鏡天井が現存例の半分を占めることを提示している。阿弥陀堂など和様仏堂で始まる来迎柱の後退が総鏡天井と関連するとし、対して方一間鏡天井は唐様に先行する密教本堂が祖形だったことを示す。前者を和様系、後者を中国系の唐様仏殿と分類することを提案している。第三節では、低い板敷の唐様建築は必ず総鏡天井を張ることから、和様系の手法だったとする。第四節では、板軒や大疎垂木は和様に由来することを明らかにしている。また、永保寺観音堂の丸桁に中国由来の生頭木が見られるが、それ以外の軒反りは総て和様の手法とする。第五節では、斗栱について検討する。唐様と和様で斗の向きが異なること、唐様肘木の形状は中国直伝ではなく、天竺様から発展した可能性があること、和様の要素とされる菱支輪は中国伝来で当初は唐様の要素だったことを示す。第六節では、尾垂木について検討する。従来の見解では、二本の尾垂木が平行な例と角度のある例に分け西日本と東日本の地域差としていたが、年代差であることを証明した。第七節では、唐様の虹梁袖切について、傾斜型と円型に分類し、傾斜型が密教本堂において主流だったことを明らかにした。</p> <p>第二章では、東大寺法華堂礼堂及び密教系本堂について検討する。従来意見が分かれていた法華堂礼堂の建築年代を細部意匠等により文永元年と断定し、その虹梁袖切が傾斜型の初例とする。また唐様に先行する長弓寺本堂・大善寺本堂の外陣は虹梁で減柱しているため、密教本堂の外陣架構が唐様仏殿の減柱造の祖形だったとし、大善寺本堂のような天井構成が方一間鏡天井・尾垂木尻架構の祖形であるとする。</p>			

第三章では、初期の唐様仏殿について個別に検討する。和様系と中国系の間に時代差はないこと、中国系も純粋な中国建築ではないこと、時代が下がると二系統の手法が融合する傾向が見られることを示す。

第四章では、唐様塔婆について個別に検討する。総鏡天井と低い板敷の関係、安楽寺八角三重塔の天井形式と中国の藻井との関係、菱支輪の様式上の問題を論じる。

結章では、本論文における検討結果について総括する。

唐様は中国から伝来した新建築様式とされているが、その成立には阿弥陀堂等の和様仏堂や密教本堂の構造及び和様・天竺様の細部意匠が深く関わっていることを綿密に論じた画期的で意欲的な論文である。論文の構成にはやや難が認められるが、日本建築史研究の発展に大きく寄与する好論文であると高く評価される。

以上、審査の結果、本論文の著者は博士（文学）の学位を受ける十分な資格があるものと認める。

備考 要旨は、1,500字以内とする。

(Note: The summary of the Dissertation should not exceed 500 words.)